

医師は語る



医療法人社団健翔会
堀口医院 理事長
堀口 裕

骨粗しょう症の現状

人生の最期まで健康で過ごせることは、誰しも願うところであり、しかし現実は大変厳しいです。男女あわせて七五歳位までは自立して生活できますが、そこから約九年間は人の世話になって過ごします。自分には病気など無縁であり、健康のまま一生を終えると思うなら、それは「油断と過信」でしかありません。元気な姿は有り難いけれど、元気さゆえに錯覚してしまうのです。さて七五歳を過ぎると様々な病気になるります。とくに多いのが筋肉の衰え、骨や軟骨の衰え、そして脳の衰えです。骨粗しょう症は骨の衰えによる病気ですが、国内には推計で千二百万人いるとされています。性別では男性・女性が1.3だそう。これは骨の丈夫さが、女性ホルモンの影響を受けるからです。五〇歳を過ぎると女性の人は女性ホルモンの減少があるため、骨量も減ります。そのため骨粗しょう症は女性の人に

とても多く、介助や介護を要する代表例の一つです。

骨の構造と骨の作られ方

骨粗しょう症と聞けば、即座にカルシウムをイメージします。確かに骨の硬さはカルシウムによってつくられています。しかしカルシウムが沈着する土台（コラーゲン）がなければ、骨の構造はできません。コラーゲンはたんぱく質とビタミンCからつくられます。カルシウムだけでなく、たんぱく質を多く含む大豆や魚、肉、牛乳、小麦なども摂るようにしましょう。そしてもっと大切なことは、たとえ骨の成分（カルシウム、コラーゲン）が準備されていても、実際に骨を作るのは細胞（骨芽細胞）なので、細胞が元気でなければなりません。さらに骨芽細胞を活性化しているのが免疫細胞です。もし免疫細胞の働きが低下しているなら、結果的に骨の作られ方も悪くなってしまう。

骨粗しょう症は自己防御力の低下

骨粗しょう症の患者さんを診察していますと、多くの例で骨への血行不良があるように思われます。慢性的な血行不良のために骨芽細胞への栄養成分、酸素、水などの供給が滞り、骨芽細胞の元気が低下します。また骨芽細胞を支える免疫細胞は血液中を循環するため、血行不良では免疫細胞の力も発揮されず、新陳代謝がさらに落ちます。そして血行不良では炎症性物質が除去されず、炎症が持続すること、これを「自己防御力の低下」と呼んでいます。骨粗しょう症だけでなく、病気の発症は自己防御力の低下にあります。

還元電子治療は骨量維持に有効

自己防御力を回復させるためには、まず血行を改善しなければなりません。血行不良の最大の原因は自律神経の緊張によるものです。この問題解決のために、私は還元電子治療を実践してきました。還元電子治療は人の身体に電子を与える方法ですが、自律神経の緊張を緩和し、最も迅速に血行改善をもたらします。また直接的に細胞の元気度の改善、免疫機能の回復、炎症の鎮静化を果たします。事実長年にわたって還元電子治療を実践している人の骨量は、少なくとも同年代以上になっていることが多いためです。日頃から還元電子治療を行い、自己防御力を高めてあらゆる病気の発症を食い止め、いつまでも健康で楽しい人生を過ごして下さい。

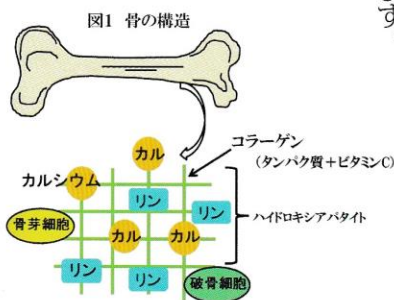


図2 骨粗しょう症の機序

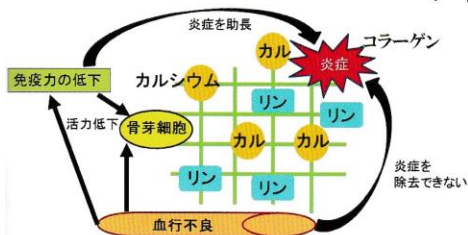


図3 還元電子治療



図4 還元電子治療による血行改善(サーモグラフィ)

